

ごあいさつ

本日はお忙しい中、2019 年度プロジェクト演習活動報告会にお運び戴き、誠にありがとうございます。

私共は、学外の多くの方々にご支援を戴きながら活動し、教室の中だけでは得られない、多くの学びを得ることができました。ご指導・ご支援を戴きました皆様に、この場を借りて篤く御礼申し上げます。

本日の限られた発表時間内では伝えきれないお話や、ご覧戴きたい資料を揃えて、ポスターセッションの場を設定致しました。

これを機に、より多くの皆様にプロジェクト演習に関心をお持ち戴ければ幸いです。

手狭な会場で恐縮に存じますが、どうぞごゆっくりご参観下さい。

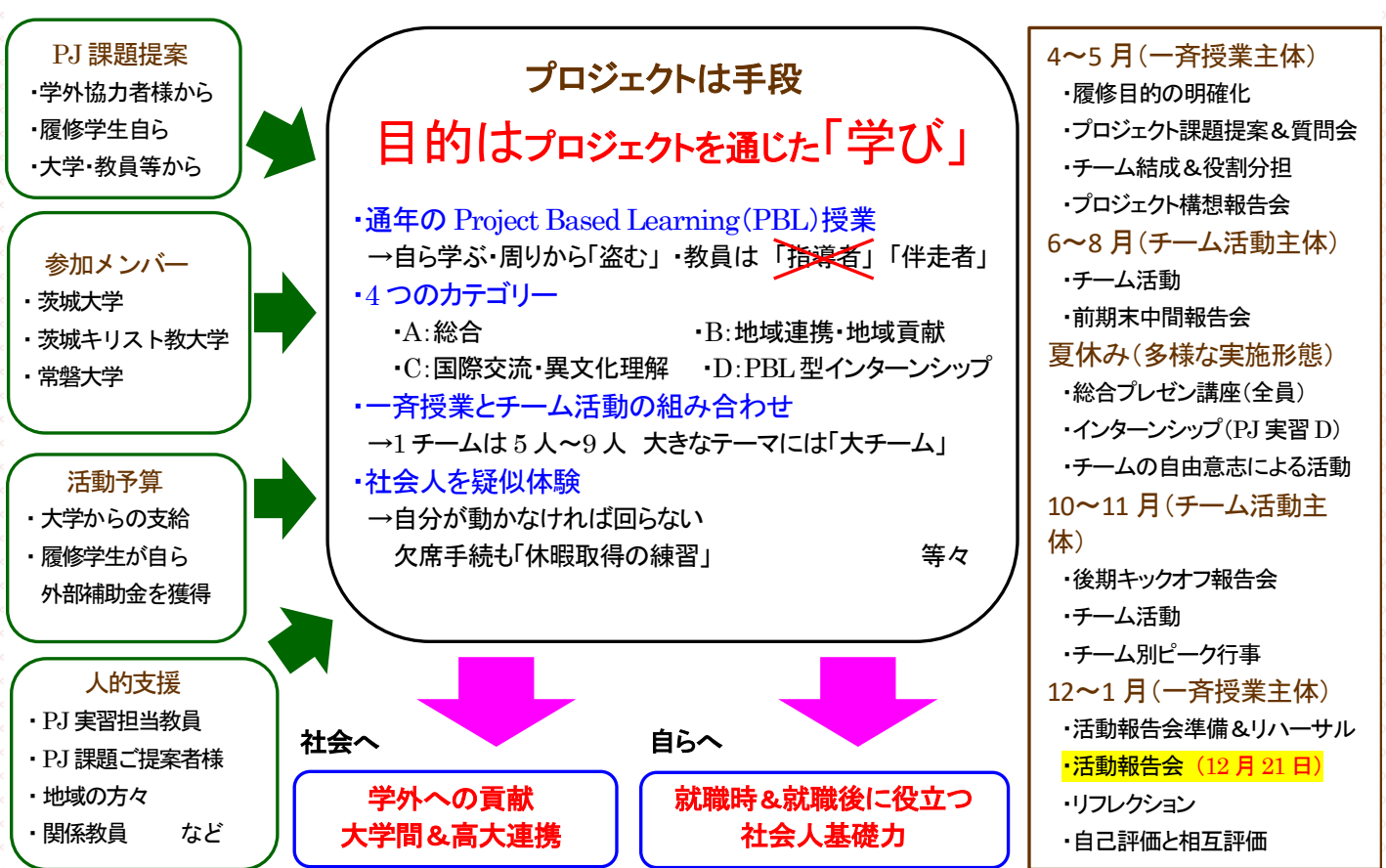
2019 年 12 月 21 日
報告者チーム一同

プロジェクト演習のご紹介

地域で活動し、「社会人基礎力」を身につけよう！

経済産業省「社会人基礎力」：<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>

プロジェクト(PJ)演習とは



2019年度学生チームが取り組んだプロジェクト

＜カテゴリーA：総合＞

- ・ワインを使った水戸のプロモーション (Domaine MITO 株式会社様ご提案)
- ・水戸中心部のコミュニティ形成 (学生提案)

＜カテゴリーB：地域連携・地域貢献＞

- ・若者・よそ者で里美の地域おこし活動 (学生提案)

＜カテゴリーC：国際交流・異文化理解＞

- ・異文化交流・自文化発信プロジェクト (茨城キリスト教大学様ご提案)
- ・五浦研の中国語・韓国語版リーフレット作成 (学生提案)

＜カテゴリーD：PBL 型インターンシップ＞

* カテゴリーDには、通常の活動に加えて2日間以上のインターンシップが組み込まれています

- ・新しい「路線バスの旅」 (水戸市交通政策課様ご提案)
- ・つなげよう！ひろげよう！ボランティアの輪 (水戸市所市民生活課様ご提案)
- ・データ活用によるICT学習教材の提案 (NTT コミュニケーションズ株式会社技術開発部様ご提案)

茨城大学 DomaineMITO プロジェクトチーム

メンバー 金沢歩輝 藤川 尚 佐々木幹太
根本真子 仲川大二郎 松永海渡



ワインを使った水戸のプロモーション

私たちはDomaineMITO株式会社代表取締役社長宮本紘太郎様からご提案を受け、ワインを使って水戸の魅力を発信し、また県内外の方々に水戸の魅力の一側面としてワインを知って戴くことを目的としました。それを通して「地域活性化」に取り組んでいこうと、活動を進めてきました。

Domaine MITO株式会社様 ご紹介

Domaine MITO株式会社はブドウの栽培からワインの醸造まで全てを自らの手で行い、販売する事を目指して立ち上げられた会社です。2016年には、水戸市街地でまちなかワイナリーをオープンし醸造を始めました。

これまでの活動 ブドウ収穫体験

8/23(金)「鯉淵学園」

9/8(日)「鯉淵学園」と
「木葉下(あぼっけ)町」



収穫したブドウ(左)と鯉淵学園のブドウ畑(右)

SNS発信、HP作成



自分たちの活動を外部の方々に知って戴くために、HPの作成やSNSを活用した情報発信に取り組んできました。

▲Twitterアカウントはこちらから

イベントへの出店

- 5/19(日) 水戸ホーリーホック vs 柏レイソル
「ケーズデンキスタジアム水戸」
- 6/2(日) 城里町古内地区「庭先カフェ」
- 6/15(土) 城里町古内地区古民家バル 「島家住宅」
- 10/5(土)・6(日) 茨城ゆめ国体 「アダストリアみとアリーナ」
-

学生アペリティフ

11/7(木)に、水戸市泉町にある多世代交流センター「マチノイズミ」にて学生版のアペリティフを楽しむイベントを行いました。この取り組みは宮本様が行われている「アペリティフ310」をモデルとし、ワインに興味を持ってもらいたいターゲットを学生に絞って行ったものです。

アペリティフとは？

日本語では食前酒。食欲をそそるために食前に飲むお酒。軽食とともに楽しむ。

まとめ

プロジェクトの目的を具体化していく過程で、メンバー間で内容への認識が違ったりと戸惑うことが多々ありました。

当初想定していた通りの活動をすべて行うことはできませんでしたがDomaine MITO(株)の宮本様や先生方の支えもあり、状況に応じて臨機応変に目標の再設定や活動内容の変更を行い、対応していくことができました。

この経験をメンバーそれぞれの今後の活動に生かしていきたいと思えます。

Mito Bloom

メンバー：木村友紀奈 佐久間秀斗 稲野邊優香
小池さくら 津田 玲菜 松本 真奈

◆活動概要『水戸中心部のコミュニティ形成』

昨今、町に住む人々の繋がりは希薄になりつつあり、それは水戸市においても例外ではありません。繋がりの欠如は災害などの緊急時にも地域に負の効果をもたらすことでしょう。

そこで私たちはこの現状に危機感を抱き、地域におけるコミュニティを強化することができないだろうかと考えました。

◆目的

水戸在住の人に地域への親しみをってもらうこと
→定期的な交流イベントの実施

+ 単年度で終わらない活動をしたい

= **310 食堂の充実化や継続のお手伝い**

◆310 食堂とは

主催：310 食堂実行委員会

開催：毎月第3土曜日

場所：マチノイズミ（泉町）

食と農のギャラリー葵（南町）

カフェリベル（南町）

趣旨：食を通じて地域住民の交流の場
となる**ことが狙い**。

→「まちの縁側」のような
存在へ。



◆活動成果

1. 親子参加型イベント「茶巾づくり」



310 食堂の充実化を図るため、料理を「作る」ことに焦点をあてたイベントを実施。合計 32 名の参加者と交流することができ、ご好評頂きました。

一方でチーム内からは、世代間の交流を増やすべきという声も上がりました。

2. 310 食堂 PR 動画作成&公開

310食堂の継続に向けて、茨城大学生のボランティアを募るために制作。

まずは活動を知ってもらうことを目標に、大学内やSNSで動画を公開しました。



◆今後の予定

1 回目のイベントの改善点を活かして、2 月に 2 回目の交流イベントを開催。

◆まとめ

このプロジェクトを通じて多角的に課題を見直し、「地域」について深く考えることができました。なかなか方針が定まらず困難なこともありましたが、壁にぶつかることでメンバー全員が確実に成長できたと感じています。

プロジェクトにご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げますとともに、水戸に住む人々の繋がりがより一層強固なものになるよう、メンバーそれぞれ活動を継続していきます。

メンバー：松山 実玖・中山 瑠伽・安藤 未羽
金子 友香・相島 優里香・比氣 梓

スキルアップ×地域貢献 ～中国語・韓国語版のリーフレットを作ろう～

茨城大学五浦美術文化研究所のリーフレットと茨城県北ジオパーク構想のリーフレットを中国語・韓国語に翻訳し、中国語版・韓国語版のリーフレットを作成しました。

チームの目的

初修外国語で学習した中国語・韓国語を継続して学習し、実践するためにこのプロジェクトを立ち上げました。また、目上の方や外部で働く社会人の方とお話したり、メールを送ったりすることによって社会的マナーを身に付け、コミュニケーション能力の向上を図ります。



リーフレット作成の流れ

日本語・英語併記のパンフレットの難しい言い回しを直すところから始めました。

中国語・韓国語にメンバーが翻訳した後、中国・韓国出身の方々に確認していただきました。

フィールドワーク @千波湖・五浦文化研究所

翻訳にあたり、バックグラウンドの理解を深めるため、千波湖及び五浦美術文化研究所でフィールドワークを行いました。

実際に現地に赴くことにより、より正確に、かつ分かりやすく翻訳することができました。



リーフレット原案完成

茨城大学五浦美術文化研究所と茨城県北ジオパーク構想の中国語版・韓国語版のリーフレット原案を作成しました。

五浦美術文化研究所のリーフレットを実際に印刷し、五浦美術文化研究所においていただきました。



まとめ

中国語・韓国語に翻訳するにあたって、言葉の持つ文化や、書式の違いについての理解が深まりました。また、多くの留学生に協力していただき、交流を深めることができました。

プロジェクトを通して、改めて周囲の支えに気づき、感謝することができました。多くの課題に直面しましたが、課題の早期発見及びその解決方法を学びました。



さとみ・あいチーム

メンバー：江口 紗姫 大貫 史織 大村みるほ 北野 友香
塩手菜々美 戸谷実花子 永田 典子 野平 知里
羽田野里菜 寺元 彰徳 久利生秋華 池田 拓野
川和 里帆 軍司 真奈 関口 佳恵 澤田由季乃

里美地区に活気をもたらしたい！

常陸太田市里美地区は自然豊かで美しい魅力的な地域です。しかし少子高齢化、過疎化など深刻な問題も抱えている地域でもあります。さとみ・あいは里美地区に活気をもたらしべく 2012 年に結成されました。今年度は昨年度までの「里川カボチャ」「お米」に加え「有機野菜」に着目し、広報・販売を通じて里美の魅力を発信し、より多くの人に知って頂くことで、関係人口（里美と関わって下さる方々）の創出を目的として活動を行いました。

チームとしての目標

活動を通じて主体性・働きかけ力・コミュニケーション能力
課題解決能力を養うことを目標に活動しました。

活動内容

5 月から週 1 回のミーティングを重ね、里美訪問の計画や活動方針などを話し合いました。

4 月～9 月	お米・里川カボチャの栽培 イベントに向けた企画準備
10 月	Open Day（収穫体験イベント）※台風により中止
11 月 2. 3 日	「2019 年 さとみ秋の味覚祭」への出店 里美で毎年開催される催しです。里美のお米の美味しさを多くの方に知って頂くために自分たちで作ったおだかけ米を販売しました。
11 月 16. 17 日	「茨苑祭」への出店 大学生、及び地域の方々に里川カボチャの美味しさを知って頂くために里川カボチャを使ったコロツケを販売しました。

お米・里川カボチャに関する今年度の活動

チームで田植え、稲刈り、おだかけ（天日干し）、脱穀を行ったお米を、さとみ秋の味覚祭にて販売しました。味覚祭での販売では、全 70kg のお米を 80 名余のお客様に購入頂くことができました。値段設定、販売戦略を練る経験は困難なこともありましたが、販売を通じて多くの知識を得ることができました。



6 月に播種、植え付けを行いました。収穫までの期間、畑を訪れた際には藁敷きや除草等の作業を行いました。しかし凶作で里川カボチャの収穫量が昨年約半分となってしまいました。茨苑祭では貴重なカボチャを使用した約 300 個のカボチャコロッケを普段里川カボチャを知る機会が少ない学生・地域の方々に購入頂きました。

販売時には里美のお米・里川カボチャの広報を重要視し、ポップを使った紹介やクリアリーフの配布などを行うことで里美の魅力を**知って頂く機会を作ることができました。**



まとめ

今年度は主に里川カボチャのコロッケの販売を通じて多くの人に里美の魅力を知って頂くことができました。しかし天候不順による凶作や台風による Open Day 中止など、計画的に活動を進めることが困難なこともありましたが、活動 1 年目のメンバーが主となって活動を行ったため、戸惑うこともありましたがその逆境が成長に繋がりました。更に有機野菜農家の方と新しい繋がりを持つことができました。今後は活動で得ることができた繋がりを活かし、里美の魅力の更なる PR と共に、地区外の方の里美へ訪れるきっかけを作り関係人口を増加させられるような活動を行いたいと考えています。

E-girls R

メンバー：平山可恋
太田妃香
矢野真佐子



地域からグローバルな未来を創造する

「グローバル化が進む現代社会に適応できる人材育成」が望まれています。私たちの大学がある茨城県日立市大みか町では、**異文化理解**と**異文化交流**があまり行われていません。そのため、上記のような人材が育成されるよう、私たちは2つのプロジェクトを通して、必要な機会を提供することを目指しました。

チームとしての目的

茨城県教育委員会は「国際理解教育の充実や英語によるコミュニケーション能力の育成が重要」と提言しています。しかし、次の現状が挙げられます。

- 現状① 学生が国際的な場面でコミュニケーションをとる機会が少ない
現状② 大みか町を訪問する外国人の目的が通勤・通学に限られており、街自体への興味・関心が薄く、地域住民との交流がない
- これらの現状を改善するため、2つのプロジェクトを始動しました。

活動内容

- 茨城県の若年層と異文化を持つ人との交流を図る機会を設け、留学生と地域を結び、異文化交流を促すため

①「**異文化交流プロジェクト**」イベントの開催

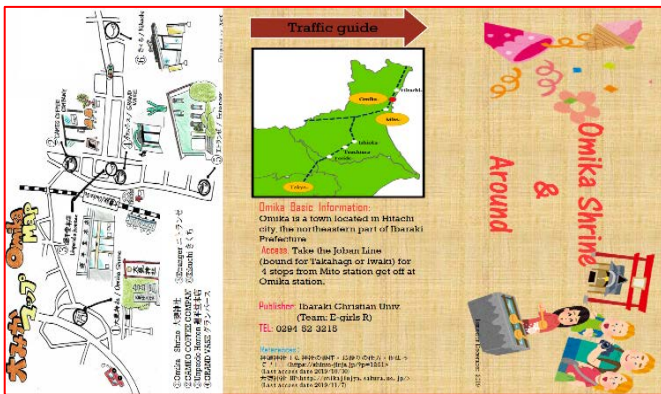
- 街に対し親しみを覚えてもらうきっかけを作るため

②英語で大みか町を発信する「**大甕マップ/Omika Map**」の作成

活動の成果

(1) 異文化交流プロジェクト

高校生及び本校と茨城大学の留学生・インターン生を招待し、7月15日に茨城キリスト教大学にて、「異文化交流プロジェクト」を開催。英語を積極的に使いながら**異文化理解**を進めることを目指しました。ご協力頂いたアンケートでは、8割以上の方から「また参加したい」との回答を得ました。



(2) 大甕マップ/Omika Map 作成プロジェクト

大甕駅周辺の店舗・施設の情報を**英語**で掲載した両面刷りの観光マップを作成しました。本校のインターン生とともに掲載予定の施設を訪問し、**外国人の視点を取り入れた情報の掲載**や**デザイン**を考えました。来年(2020年)1月にマップの印刷と配布を予定しています。



まとめ

私たちは、「グローバル化が進む現代社会に適應できる人材育成」という目的を達成するために、イベント開催を通し「**若年層の異文化交流の機会**」をもうけ、大甕マップ作成を通して「**外国人が大みか町に興味を持つきっかけ**」を提供しました。

また、プロジェクト活動を通じて、実現可能な範囲内で適切な計画を立てることやチームワークの必要性と重要性を学びました。さらに、仕事を依頼する方法を習得するなど、社会人基礎力の向上につながりました。

KoMiKo

メンバー：海老根弘人・伊藤 玲美・
荒川 祐太・匂阪 浩聡・山形 賢志

茨城交通様の路線バス利用促進

チーム KoMiKo は、水戸市交通政策課様よりご提案戴いた、「水戸市の公共交通の活性化」という課題に取り組みました。具体的には「茨城交通様の路線バス利用を促進させること」を目的とし、市民の足となる路線バス利用者を増加させることで、公共交通の活性化につなげようと考えました。

つくろう！「路線バスの旅」



「路線バスの旅」とは、茨城交通様が実施しておられる、既存のバス路線を用いた地域振興型のバスツアーです。観光バスではなく、既存の路線バスを活用する所に特色があります。

KoMiKo では、この「路線バスの旅」に新しく魅力的なツアーを加えることが、路線バスの

の利用者増加につながると考え、お客様に参加したいと思って戴けるような、内容の充実したツアーを目指して作成に取り組んできました。

外部補助金を戴きました

机上の空論にならないよう、メンバーによる実地調査に加えてモニターツアーも行い、結果をプランにフィードバックしました。

実施に当たっては、茨城県公共交通活性化会議様より「地域公共交通利用促進活動助成金」の交付を戴きました。ありがとうございました。



茨城交通様へのツアーご提案

最終的には、茨城交通様へ

- ・大洗散策ツアー
- ・御前山トレッキングツアー

の二つをご提案しました。集客の見込みや、ツアーの見どころ・ウリなどを提示し、ツ

アーの地域振興の可能性と茨城交通様へのメリットをお示ししました。ツアーの実施は申請から1か月ほどかかるため、現時点では利用状況の検証は行えていません。今後、ツアーの利用者数を検証する予定です。

まとめ

今回のプロジェクトでは、お客様に手を取ってもらえるようなツアーの作成を目指し、チームで何度も話し合いを行いました。また、茨城交通様は勿論、インターンシップでもお世話になった水戸市交通政策課の皆様を始め、多くの方々よりたくさんのアドバイスを頂きました。ツアーのご提案に至るまでは、様々な困難もありましたが、最終的には魅力的なツアーが出来上がったと自賛しています。この経験で得た学びを、今後の各人の活動に活かしていきたいと思えます。

こみフェスチーム

メンバー：中崎航汰・大塚 萌 ・小野嶺奈
庄司果織・田岡真美子・黒澤卓矢

水戸市で活動する NPO やボランティアの繋がりを作る

こみっとフェスティバルとは、水戸市内で活動する NPO やボランティア団体の日頃の活動や成果を発表する場です。また、ボランティアの活動を多くの人々に知っていただいたり、活動団体どうしの繋がりを広げたりする場でもあります。私たちはこみっとフェスティバル広報係として、メディアを通して、ボランティア活動の周知を行いました。

ボランティア活動

ボランティアを周知するためには、まず私たちがボランティアを知ることが必要だと考え、実際に活動に参加しました。

- ・ 8 月 18 日（日）
子育て支援 BE-LIEF 主催のジョイントコンサートのお手伝い
- ・ 8 月 21 日（水）
ぺんぎんくらぶ ハーバリウム作り体験のお手伝い



広報活動

- ・ 9 月 16 日（月）水戸まちなかフェスティバルでのチラシ配布、団体へ出店の呼びかけ
- ・ 11 月 16 日（土）・17 日（日）茨苑祭にて、カップにこみっとフェスティバルを宣伝するシールを貼ったタピオカを販売
- ・ SNS を用いた広報
- ・ ラジオ出演（予定）

アンケートの作成

水戸市のボランティアの実態を知るためのアンケートを作成しました。茨苑祭でタピオカを販売する際にお客さん130人に配布し回答して戴きました。また回答率を上げるために回答者にはタピオカを割引で販売しました。このアンケート結果は、集計し、今後のこみっとフェスティバルの開催やボランティア活動に活かしていく予定です。



水戸市制 130 周年記念事業

水戸市制 130 周年を記念して何か形に残るものを作ってほしいと依頼を受け、「みと 130 の笑顔（掲示物）」、記念動画「あなたの感謝したい人は？」（こみっとフェスティバル当日にスクリーンに投影）、みとちゃんガチャ（こみっとフェスティバル当日の子供向けイベント）を考案し、実行へ向け準備を進めています。



まとめ

今年は去年とは違ったことに挑戦することができた。まず水戸まちなかフェスティバルではチラシを配布するだけでなく、出店していた団体にこみっとフェスティバルにも出店しないか直接声をかけた。また茨苑祭では、カップにこみっとフェスティバルを宣伝するシールを貼ったタピオカを販売することで特に若者に周知ができたと考えている。広報活動以外にも、水戸市制 130 周年記念事業の作成を任せ、動画の撮影・編集を行っている。2020 年 2 月 15 日（土）に行われる本番当日に向けて、宣伝を続けていきたい。

BADAI×ICT ラボ

メンバー：小笠原彩葉 生田梨帆 岸朱里 並木舞香
栗原千怜 小瀧千尋 関澤南

活動概要

「インターネット検定」公式テキスト&公式サイトの改訂

NTTコミュニケーションズ株式会社が実施しているICTスキル認定資格「インターネット検定・ドットコムマスター」。私たちはこの検定の公式テキスト、並びに公式サイトを、利用者にとってより分かりやすく、使いやすいものに改訂することを目的として活動を行いました。

活動内容

「.com Master BASIC」

インターネット検定には選べる2つの資格があります。そのうち基礎知識を学びたい方向けた資格・BASICの公式テキストが「.com Master BASIC」です。私たちは今回このテキストの改訂に携わりました。



週一回のミーティング

定期的に話し合いの場を設けることで、情報や意見の共有に努めました。

夏季インターンシップ

- @NTTコミュニケーションズ株式会社
- ・サイト改訂案について意見交換
 - ・オフィスツアー

改訂案提案

・サイトについて

実際に閲覧・利用して気づいたことや、制作会社の方々との意見交換をもとに改善すべき点を提案しました。

・テキストについて

茨大生 141 名にインターネットの利用についてアンケート調査を実施。その結果と既存のテキスト内容を照合し、追加すべき項目を提案しました。

インターネットサービスの利用についてのアンケート

プロジェクト演習
(ICT チーム)

私たちは、プロジェクト演習という授業の一環で、「インターネット検定」のための教材の改定案を考えています。今後改定案を提出するにあたり、大学生のインターネットサービスの利用状況を確認し、私たちにとって必要な知識を具体的に検討するために、このアンケートの結果を参考にさせて頂きたいと思います。ご協力よろしくお願致します。なお、頂いた情報は他の目的では使用致しません。

インターネットサービスとは SNS、検索エンジン、ネットショッピング、音楽・音声配信サービス、動画配信・共有サービス、電子書籍、オンラインゲーム、ブログ、掲示板等を指します。

問1. インターネットサービスを利用して何かトラブルにあったことはありますか。

当てはまる方を選んでください。

はい いいえ (「はい」と答えた方は問4へ)

問2. 【問1で「はい」と答えた方のみ】差し支えなければ、そのサービス名とトラブルの内容について教えてください。(複数可、その場合は②③…と書き足してください)

(サービス名: ①)

①

アンケートの質問票 (部分)

成果 〈採用された内容〉

・サイトについて

⇒受験者の声の掲載

⇒2種類の資格を、テキストの色で分けてわかりやすく表示

・テキストについて

⇒「フェイクニュース」「キャッシュレス決済」「利用規約の確認」などの項目の追加

* 現在編集作業中のため、変更の可能性あり



インターネット検定HP (部分)

まとめ

プロジェクトの特性上、成果が目に見える形で確認できるため、提案した内容が実際に採用された時はこの上ない達成感を感じることができました。また活動を通じてチームワークの大切さや、論理的思考の重要性を学びました。後者についてはアンケート結果から提案を行ったことで、実践できたのではないかと考えています。今回学んだことを今後の活動にも活かしていきたいと思っています。